

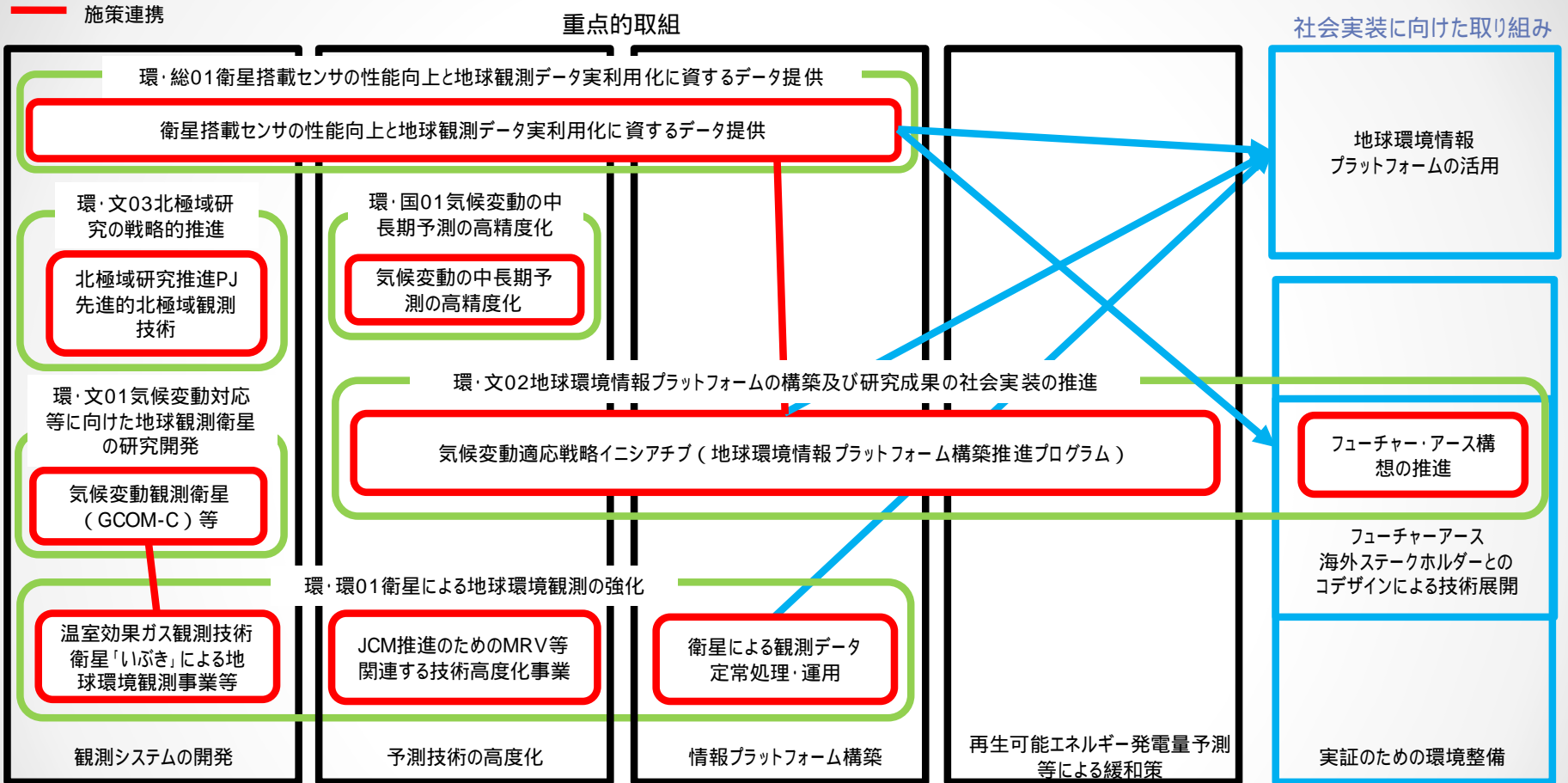
平成28年度アクションプラン特定施策への助言(案)

資料1

個別施策

平成28年度アクションプラン(H28AP)：地球環境情報プラットフォームの構築

個票



H28APについて、環境WG第8回で、省庁の説明に対して構成員の助言をいただいた。事務局でとりまとめた助言を環境WG第9回で確認し、重要課題専門調査会第7回(3/7)に報告する。報告した助言に対して省庁がH28AP個票を修正し、重要課題専門調査会第8回(4/11)に提出する。

環・文01

気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発

- 1) 安定したデータ利用のためには、同じ設計思想に基づいたセンサの継続運用が必要である。よって、GCOM-Cについては、これまでのプロダクトとの連続性確保に向けた取り組みを推進すべきである。
- 2) プロダクト提供のリアルタイム性の向上を期待する。
- 3) GCOM-Cは、ユーザー側との連携やデータ利用者からの要求のフィードバックにより、次期衛星計画やプロダクト仕様などへ活かすPDCAを回す取り組みが必要である。

環・文02

地球環境情報プラットフォームの構築及び研究成果の社会実装の推進

- 1) ユーザ向けサービスを充実させ、多くのユーザーに利用されるような具体的なアプリケーションの開発を期待する。
- 2) 観測と利用をつなぐデータハブとして発展させるため、観測側と利用側の両方向を見据えた利活用の促進への戦略的取組を期待する。
- 3) 今後アーカイブが予想されるデータにおいても、適切なデータ管理を行う必要がある。

環・文03

北極域研究の戦略的推進

- 1) 多岐にわたる学問分野のうち、重点化すべき分野を特定して、研究戦略を明確にすべきである。
- 2) 国際研究拠点の構築のために、どの程度の人材育成と施設整備が必要なのか、定量的目標とその達成ためのプロセスを示す必要がある。

環・環01

衛星による地球環境観測の強化

- 1) GOSAT-2の温室効果ガス濃度および吸収・排出量の精度と空間分解能によって可能となる利活用の内容を把握し、排出量削減のためのMRVやJCMへ貢献しうる技術水準に向けた研究開発を引き続き進める必要がある。
- 2) 一酸化炭素やエアロゾル・微小粒子状物質(PM)などについてGOSAT-2から得られるデータの有効性を検証し、その検証ができたところで、研究機関や地方自治体等のPM観測等と連携することが望ましい。

環・総01

衛星搭載センサの性能向上と地球観測データ実利用化に資するデータ提供

- 1) 社会利益分野への貢献が明確なセンサは、開発と運用を継続できる体制を整備する必要がある。
- 2) ユーザー側と連携し、データ利用者からの要求をフィードバックして、次期センサ開発に活かすPDCAを回す取り組みを期待する。

環・国01

気候変動の中長期予測の高精度化

- 1) 高解像度化によって、どのような社会・経済的課題に貢献できるのかを明確にして、予測地域の選定や予測情報の活用に取り組むことが必要である。
- 2) 農林水産業や生態系への影響の予測にも活用できるような気候変動予測の高精度化に期待する。
- 3) 情報提供について省庁と連携し、民間も含めたより広いユーザーに情報が利活用できる体制の整備が求められる。